

1. 開催日時

令和2年2月6日(木) 午後1時30分～午後2時50分

2. 開催場所

船橋市立医療センター D館3階 講義室

3. 出席者

(1) 委員

福山委員、寺田委員、鳥海委員、横須賀委員、三井委員、伊藤委員、  
藤代救急課長(高橋委員代理)、杉田委員、笹原委員

(2) 理事者

(病院局) 病院局長、特別顧問、副病院局長(事務局長)、経営企画室長(総務課長)  
(医療センター) 院長、多部田副院長、三村副院長、伊藤副院長(看護局長)、  
診療局長、中村技監、茂木技監、救命救急センター長、薬剤局長、  
放射線技術科技師長、臨床検査科技師長、和田副看護局長、武村副看護局長、  
医事課長、地域医療連携室長(医事課長補佐)、総務課長補佐

4. 欠席者

齋藤委員、山本委員、寺井委員、野々下委員

5. 議題

- (1) 令和元年度の取り組み状況及び決算見込、経営指標について(公開)
- (2) 令和2年度船橋市病院事業計画(案)及び予算(案)について(公開)

6. 傍聴者

なし

7. 決定事項

- (1) 令和元年度の取り組み進捗状況及び決算見込、経営指標の状況について確認。次回、同委員会にて令和元年度の取り組みに対する最終的な評価を行う。
- (2) 令和2年度の船橋市病院事業計画(案)及び予算(案)について確認。目標値等の内容について承認された。

8. 議事

(1) 委員の変更及び出欠状況について報告

代理人を含めて委員13名中9名が出席しているため、会議は成立。

(2) 審議

【副病院局長が令和元年度の取り組み状況及び決算見込、経営指標について説明】

委員長：まずは令和元年度の取り組み状況について見ていきたい。全般的によく取り組んでいるというのが第一印象だが、目標が厳しすぎるようにも感じる。その辺りも含めて何か意見はあるか。

副委員長：医師会としては紹介患者の受け入れシステムが医院から直接紹介する方法、診療科部長への直通電話ですぐに受け入れてもらう方法、患者さん自身に予約をとってもらう方法の三通りになって、紹介するのが楽になった。また、逆紹介も多く、大変助かっている。

委員：かかりつけ医として併診という形で診療をしているが、数ヶ月に一度の検査で医療センターにかかっている患者さんに対し、自分の専門外の分野に関しても丁寧な検査結果を送ってくれるため、かかりつけ医としては非常にありがたい。ここまで丁寧にやってくれる病院はなかなか無いため、数字には表れない部分だが、連携という点でレベルアップしていると思う。

委員長：他には何かあるか。評価が×となっている査定率については目標の達成がなかなか難しいところだと思うが、査定を行う側としてはどうか。

委員：査定率は審査員の考えによる部分もあり、どこの病院でも苦勞している。レセプトの作成はどの病院も一生懸命にやっていると思うが、病院によっては、専門の人が厳しく見ているところもあると聞いている。

また、目標値の設定が非常に厳しいのではないかと。病床稼働率、平均在院日数などが高い目標値となっているが、平均在院日数については、高齢化により長くなると考えている。回復期病院への転院や介護施設への転出は、ご家庭の事情で待つてほしいと言われることも多い。また、患者さん自身の希望もあるため、その辺りの数値を上げていくのは大変である。しかし、総じて医療センターは良い成績だと思う。

院長：査定について、当院では専門家を置くことができていないので、各診療科の医師や医事課が努力しているが、なかなか目標に届かないのが現実である。

委員長：材料費についてはどのように考えているか。

院長：診療材料も薬品も高額なものが増えている。高度な治療を行うには高額な材料を使うことになり、抑える努力はしているが難しい現状もある。

委員長：高度急性期病院として難しい部分もあるが、抑える工夫は必要かもしれない。

委員：「安定した病院経営」とあるが、近年の実績をみると安定していることがはっきりと分かる。丸山院長、高原病院局長を中心に、職員が一体となって運営に取り組んできた成果だと思う。船橋市や近隣市の方は本当に助けられているので感謝したい。

令和元年度の決算見込みについて、入院・外来収益は当初の予算を約5億上回っている。内訳は入院が7,600万円、外来が4億4,400万円をあわせて5億2,000万円の増となっている。給与費も8億8,500万円と、当初より4億3,300万円少なくなっている。材料費は、当初予算46億300万円から51億1,100万円と上がっている。診療材料については、令和元年度の取り組みの「同種同効品への切り替え」で約500万円削減したとあるが、他に何か特別な支出があるのか。

また、令和元年度の取り組みの「救命救急センターの充実」の中に、「脳卒中センターの開設」という項目があり、脳卒中の紹介患者をすべて受け入れ、利用率95%以上という実績となっている。知り合いにも2名脳卒中で医療センターを受診した方がいて、1人は現在も船橋市立リハビリテーション病院に通っている。医療センターの職員が尽力した結果が今回の取り組み状況に表れていると思う。

経営企画室長（総務課長）：材料費の伸びについては、補正予算で6億6,000万円の増額をし、予算現額が52億6,300万円となっている。決算見込みについても、この予算現額と近い数値となっている。今回の補正予算の理由としては、高額な抗がん剤であるキイトルーダの適応拡大や、ペースメーカーやインペラのポンプカテーテルなどの高額材料の使用量が増えたことが挙げられる。

同種同効品への切り替えについては、物流センターの受託業者からの切り替え提案などで診療材料費の削減効果を見込んでいる。また、ベンチマークシステムを導入したので、平均的な価格をチェックしながら、材料費の削減に向けた試みを今後行っていきたいと考えている。

委員長：他の取り組みについては何かあるか。救急車の受け入れ台数や三次救急患者数が前年度より増加しているようだが、その点についてはどうか。

委員：救急車の受け入れ台数、三次救急患者数ともに年々増加しており、非常にお世話になっている。医療センターには船橋市だけでなく、近隣の鎌ヶ谷市や習志野市からの救急搬送もあるので、今後とも受け入れをお願いしたい。

委員長：他に何か意見や質問はあるか。無いようであれば議題2に移りたい。

【副病院局長より令和2年度船橋市病院事業計画（案）及び予算（案）、目標値の変更について説明】

委員長：働き方改革などで人件費が上がっているなか、給与費が下がっているようだが、この辺りはどうか。

院長：医業収益や材料費が給与費以上に上がっているため、比率は相対的に下がっているが、給与費の金額自体は上がっている。高度急性期病院としての機能をより充実させるため増員を図っていかなければならない上、働き方改革による医師の時間外手当の増加や会計年度任用職員制度の開始により、経営についてはかなり厳しいという認識をしている。

委員長：紹介率・逆紹介率が高くなっているようだが、非紹介患者の初診料の金額が変更になった影響はどうか。

医事課長：診療報酬改定に伴い、400床以上の地域医療支援病院では非紹介患者の方から5,000円以上を徴収することが義務付けられたため、当院でも平成30年10月から5,400円を徴収することとなった。結果として、60%前後であった紹介率が10%近く上がり、今年度12月末時点の平均では72.5%となっている。

委員長：取り組みについて他に意見や質問はないか。特に無いようであれば、予算は市の議決を経たうえで正式に決定されるが、当委員会としては令和2年度船橋市病院事業計画（案）及び予算（案）について承認するものとしてよろしいか。よろしければ、これで議題は全て終了となる。最後に事務局からの連絡はあるか。

経営企画室長（総務課長）：次回は7月中に2時間程度、医療センターにて開催予定となっており、日程については5月頃に各委員へ改めて連絡させていただく。次回の委員会では、令和元年度の取り組み達成状況の評価についてご審議いただく予定となっている。

委員長：それでは、本日の委員会を閉会する。

**9. 資料**

別添のとおり。

**10. 問い合わせ先**

病院局経営企画室

047-438-3321(代)